

桜蔭俳話会 七月句会 (第三二七回)

平成二十六年七月二十七日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 4点 弁明の舌の真つ赤よかき氷 守  
3点①胃薬の舌に残りぬ梅雨の雷 秀一  
2点①電車待つホームの扇子持ち替へぬ 秀一  
2点①大夕立ジョギング姿勢保ちけり 秀一  
2点①蝉生る一声ありて日の暮れし ツル子  
2点 恋人と言ふ程でなしかき氷 守  
2点 十葉をずらり干したり元氣婆 ヤエ子  
2点 堂堂と色褪せはじむ七変化 才美  
2点 見送りし子の忘れ物夜の秋 弘子  
2点 風鈴の伊万里焼なりフエリー来る 明美  
2点 風鈴のそよりとませず暮れかかる 弘子  
1点①緑雨なり拭ふべきもの何もなし 才美  
1点①遡るはなしとだへず遠花火 秀一  
1点①校正の一字気になる熱帯夜 守  
1点①白南風や青一色のワンピース 才美  
1点 約の日の待ち合ふ友の白緋 ツル子  
1点 隣家よりサンバのリズム熱帯夜 明美  
1点 くま笹の揺れるにまかす蝸牛 友子  
1点 空映し泳ぐ目高や瀬戸火鉢 幸  
1点 引き波とたはむる足うら八月尽 才美  
1点 急ぐ足太字にゆれる氷水 ツル子  
→ 大夕焼元零戦のパイロット 守  
1点 蔓引けば踏ん張り返す草の意地 幸  
1点 薔薇真紅絵筆一氣に進むなり ヤエ子  
1点 色褪せた紫陽花咲けり我庭に 眞壽  
→ 沙羅の花ぼとりとひとつまたひとつ 幸

※

潮風に揺れる老舗の夏のれん 幸

夏オデン鍋に出戻る箸悪し 眞壽

こきぶりと思ひかなぶん一撃す ツル子  
 涼しさやドミノ倒しのた走れる 才美  
 涼風の時に入り来る厨窓 弘子  
 戦つて勝利を得た巴里祭 直子  
 病葉や少女の消ゆる田舎道 明美  
 汗を拭く懐かしカンナも雨に濡れ 直子  
 ブルーベリーころころともぐ夏深し ヤエ子  
 散歩中の犬腹這へる片かげり 友子  
 身不知が落ちて鮮か菱緑 眞壽  
 梅干しの濃き色染まるにぎり飯 弘子  
 空へ向き何を語るか凌霄花 ヤエ子  
 飾り山笠ビル三階の視線かな 明美  
 旅装束の芭蕉の像やさみだるる 友子  
 涼しげに麦茶の氷リンリンと 眞壽  
 静もりし森のひぐらし道の駅 弘子  
 涼しさや豊かな白い浜木綿香 直子  
 草引きて蚊の襲来に我を打つ ツル子  
 紙吹雪吐きつ山笠廻り止む 明美  
 食ひ初めの兎の口元へ夏料理 友子  
 病葉や谷のセシウム半減期 守  
 足漕のスワン向へり木下闇 秀一  
 土用鰻三島の水の清らかさ ヤエ子  
 ゴーヤ味噌苦さが癖になる夏の日 直子  
 福島の農家の名あり桃熟るる 友子  
 夕食後家族で食べる枇杷ひとつ 眞壽  
 まだ黄色と言えぬ青いミニトマト 直子  
 (不在投句 古野明美、恩田才美、荒木ツル子)

「事務局からお知らせ」

○第一一四回通信句会作品募集

夏に属する季語を用いた三句。締切りは、八月十日(日)。同封の葉書でお送りください。

○八月の句会は休みです。

○九月の句会

- ・日時 九月二十八日(日)午後一時から
- ・会場 旭区民文化センター・サンハート
- (相鉄線二俣川駅ライフ五階)

通信句会の外部選者をお願いしています飯村寿美子先生が会長をしておられる、旭区内の俳句会の集合体では、今秋に俳句作品の展示会を開催します。

桜蔭俳話会もこの会の趣旨に賛同して参加することになりました。一人一句で作品を短冊に筆書きし、短冊掛けに収めて出品します。短冊自体の出品はまだ先の事になりますが、会場にて配布する葉の出品リスト欄に、俳句と作者名を載せます。この葉の印刷原稿は九月初めに確定したいとの事ですので、八月二十五日までに、担当幹事の藤本友子さんのところまで、郵便葉書またはメールで出品の一句をお寄せ下さい。